

【第4学年】児童の課題及び授業改善策

＜令和2年度＞

	児童の実態	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分の経験したことや考えたことについて話したり聞いたりする力に個人差が見られる。 ◆読書が好きな児童が多い中、読みたい本が選べない児童もいる。 ◆書く内容の中心を明確にし、段落相互の関係に注意して文章構成を考える力に個人差がある。文を書くことに苦手感をもつ児童もいる。 ◆漢字テストでは書くことができるものの、学習した漢字を日常の中で活用する力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○対話やグループで話し合う機会を意図的に計画的に設定し、自分の考えを話したり、相手の考えを聞いたりする機会を増やす。 ○マイブックを持参し、いつでも本に親しむ環境を定着させる。 ○自分の考えを整理して分かりやすく伝えるために、書きたいことを明確にもつことに加え、段落の構成の仕方や文章の手本となるもの等を示し、視写させることで書き方を身に付けさせる。新聞記事の視写なども取り入れていく。 ○新出漢字の練習では、漢字を使い短文を書く練習を取り入れていく。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分の生活や社会の出来事に興味・関心が高い。 ◆グラフを読み取る力が弱い。 ◆資料から読み取れる事実と自分の考え（解釈）を混同してしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の中で、資料の読み方（題名、横軸、縦軸、グラフの傾向）を丁寧に指導する時間を確保する。 ○資料をもとにする学習では、事実を読み取る活動と、その事実をもとに思考する活動を明確に分け、何が事実で何が考えなのかを確認しながら授業を行う。 ○毎時間のねらいを明確にして授業を行う。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ◆課題を的確に理解する力、学んだことを応用して新たな問題を解く力が弱い。 ◆図や表を用いて、自分の考えを説明する力に課題がある。 ◆意見交換する際に、自分の考えと比較して聞くことで、よりよい解決方法や多角的な見方を育てていく必要がある。 ◆四則計算の習熟における個人差がある。特にかけ算やくり下がりのある引き算が確実にできるよう基礎的な知識や技能を身に付けさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題をつかむ過程では、問われていることは何か、今までの問題との違いは何かを理解できるように、ICT等を効果的に活用しながら確認する。 ○自分の考えの根拠を友達や全体に説明する機会を意図的に設定し、絵や図、数直線、式などで表す良さを感じさせる。 ○それぞれの考えを発表し合う場面を通してそれぞれの理解を深めたり、多角的に問題を考える力を育てていく。 ○授業において前時の復習を行い、その様子やノートから既習事項の定着の度合いを確かめ、個別指導に生かす。計算練習は毎日家庭学習として取り組む。また、必要な場合は、ドリル等を活用し、既習事項にさかのぼって習熟を図る。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ◆植物などの観察では、細部までじっくりと観察することに課題がある児童がいる。 ◆実験は大変意欲的に取り組むが、結果から考察する部分は弱い。また、新たな課題を見付け、追究していく力も身に付けていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観察の視点、表現の仕方などの基礎・基本を押さえる。場合によってはICTを活用して写真を撮ってきて、画像を見ながら観察のポイントを話し合う、じっくりと見て描くなどの工夫をしていく。 ○課題→予想→実験観察→結果→考察の流れを大切に授業を組み立てる。 ○映像や写真などの視覚教材を活用することによって、解決への手だてとしたり、理解を深めさせたりしていきたい。また、それらの資料を自らの力で選択していくことができる力も身に付けさせていく。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分の力で調査することが可能で、かつ追究する価値のある適切な課題を設定することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題を設定する場面において、問いによって、調べる内容やその追究の結果得ることができる成果に大きな違いがあることを、具体的な例を示しながら、繰り返し指導する。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ◆楽しく主体的に取り組んでいる児童が多いが、活動意欲を更に高めていく必要がある。 ◆技能面に個人差があり、個別支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の中で互いに表現のよいところを発表させ、学び合い高め合う学習活動を取り入れるようにする。苦手意識のある児童には、できるようになったことを評価し、次の段階への意欲をもたせるようにする。 ○スモールステップによる個に応じた指導パターンを用意し、継続した指導を行う。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ◆楽しんで課題に取り組む児童が多い。 ◆学習のめあてを意識して取り組むことが難しい児童もいる。 ◆技能面に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道具、材料の使い方など基礎的な内容の定着を図る様な題材を工夫する。 ○自分の作品や友達の作品のよいところについて話をする活動を取り入れる。 ○参考作品や資料を準備し、視覚的に学習内容を理解させ、創意工夫を重ねて活動する力を培う。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ◆めあてに向けて地道な努力が必要な取り組みに対して、粘り強さや基礎体力に個人差があり、指導の工夫が必要である。 ◆運動に苦手意識をもっている児童も多く、授業の組み立てに工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○集団で活動するよさを取り入れルールを守って行動できるようにする。 ○児童一人一人が、自分に合っためあてをもてるような学習資料の提供を行い、楽しく継続して運動できるようにする。 ○意欲的に参加できるように運動の場や用具・運動の仕方を工夫する。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ◆学習した言い回しをフルセンテンスで使うことができず、単語のみで応答する児童が少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○言い回しをフルセンテンスで聞かせる場面を増やし、できるだけ児童の生活に結び付いた自然な状況設定の中で、英語を使ったやりとりを行うことができるようにする。